

菅原 裕文（すがわら ひろふみ）氏プロフィール



○研究テーマ

後期ビザンティン聖堂（13～15世紀）における儀礼化の進展。後期ビザンティンでは聖堂装飾プログラムが多層化・複雑化するが、それがどのように進展していったのか、その性格が前の時代とどう違うのかを、聖所周辺のプログラムを中心に検討している。最近では、キリスト伝サイクルにも関心を広げて、後期ビザンティンにおける聖堂装飾の特質を総合的に研究している。

○略歴

2003年 上智大学大学院 文学研究科 史学専攻 博士前期課程 修了

2009年 早稲田大学大学院 文学研究科 芸術学（美術史）専攻 博士後期課程単位取得退学

2009～11年 早稲田大学 文化構想学部 表象・メディア論系 助手

2012年 博士（文学）

○主な業績

「エレウサ型聖母子像における受難の含意」『美術史研究』第42号、2004年3月、127-146頁

「カッパドキアにおける慈愛の聖母の受容」『美術史』第162冊、2007年3月、84-97頁

「名と形の間 - エレウサ型聖母子像とブラケルネ信仰」『聖地と聖人の東西-起源はいかに語られるか』勉誠出版、2011年8月、473-492頁

「聖母子像にともなう天使の役割」『エクフラシス』第1号、2011年3月、56-69頁

「優しさの形 - エレウサ型アンナ像の出現とその意義」『地中海学研究』第35号、2012年5月、55-74頁